

生涯武道・日本跆拳道と「月」

2014年11月11日

日本テコンドー協会

会長 河 明生

一人でも多くの門人・会員の皆様が、私同様、「人生はいい」と幸福を実感して頂きたいと希望し、その実現のために日本テコンドー協会（以下、J T A）は、何を成すべきなのかを日々研鑽しております。

現代日本は、バブル崩壊以降の長期不況からいわゆるアベノミクスに至る過程で格差の進行、というよりは一部の功利的な特権階級による一般人に対する労働強化と搾取が強化されています。

私は共産主義者ではありません。

自由と民主主義を尊ぶ自由民主主義者であり、一定の競争は社会の進歩に不可欠であると考えています。

しかし、過度な自由の主張及び競争は、国家・社会に害悪をもたらすと確信しております。平和で安定した国家・社会を構成し、より多くの人々に幸福追求の機会を与える上で不可欠な社会的存在は中流階級ですが、過度な自由の主張及び競争は中流の激減をもたらすことになるからです。

日本は、中流の国であり、中流の国でなければならない、

というのが私の政治的信条です。

ところが最近、中流の崩壊を目の当たりにしています。

たとえば、J T Aの行事や出張の都度、社会人の門人・会員の疲弊に心を痛めています。原因は明らかに仕事による過労です。

過度な競争と合理化のもと牛馬のごとく働かされて精神を病み、体調を崩している方が少なくありません。

このまま仕事を続けると過労死するのではないかと危惧される方もいます。

その状況はJ T Aのみならず日本全国で確認されています。

過労によるストレス蓄積は、家庭内の不和も惹起します。

子供の世界でいじめがなくならないのも、大人の社会＝職場でのいじめが原因の一つだと考えられます。

子供は国家・社会の未来の宝であると同時に大人の現実を投影する鏡です。

職場でいじめられた親が子供に対し、好むと好まざるとに拘わらずストレスを転嫁しているからではないでしょうか。

微笑みの絶えない幸せな家庭で育った子供がいじめに手を染めるとは考えにくいからです。

もとより退職することが健康を取り戻す最善の道であることは誰もが知っています。
しかし、その後、どのように生活の糧を得るかで苦悩し、安易に退職することもできない
というのが現実です。

私は J T A の 門 人 ・ 会 員 に 、 仕 事 と 家 庭 以 外 に 「 月 」 を も つ べ き だ !、と提唱します。

古来より月は人々の感傷を誘ってきました。

闇夜を照らす月の輝きは美しい。

その姿は満月にもなれば三日月にもなり、人々を楽しませてくれました。

ある者は無言で眺めるだけで心を癒し、ある者は詩を誦んじ、ある者は歌にその思いを込
めてきました。

種の保存は生物の使命ですが、人だけは恋愛という感情にもとづき異性を選びます。

男女のいとなみが燃えるのも、月から発せられる光が、あたたかも甘美な媚薬のように彼ら
を抱擁の嵐へと誘うからだと言われています。

周知の通り、月は人の生存にも不可欠な存在です。

月があればこそ地球の自転は24時間となります。

仮に月がなければ、地球の自転は8時間となり、地球には毎日、強い風が吹き荒れ、地形
の高低差が著しくなり、海・川・湖はなくなり現存する生物の大半は死滅すると言われて
います。とりわけ二本足で歩く人は生存できなくなり、イグアナのような地面を四本足で
這う生物のみが生存できるとされています。

周知の通り太陽も重要です。

ありとあらゆる命の恵みは、太陽の光無くして存立が難しいからです。しかし、人は太陽
に近づくことはできません。熱死するからです。

太陽と遠く離れた地球の距離が、生物が生存する上で適切なのです。

ところが、地球は太陽とは一定の距離感を保っているにも拘わらず危機的状況にあります。
過度な自由の主張及び競争等を基底とする人の果てしない欲望が自然環境を人為的に破壊
しているからです。とりわけオゾン層の破壊による太陽熱の直撃に伴う温暖化は深刻です。
地震、津波、台風、竜巻、異常気象はもとより、強い紫外線による癌細胞の活性化等の健
康被害が著しいと警鐘が鳴らされています。にも拘わらず特権階級は我欲を改めようとは
しません。地球上で最も愚かな生物と言えるでしょう。

人は自然のあり方や歴史から教訓を学ばなければなりません。

人が生きる上で重要なものであるが、一定の距離感が必要であり、果てしない青天井の我
欲に埋没すると、取り返しのつかない禍根を残す、ということを悟るべきです。

私は自分および家族を「地球」と仮定します（以下「地球」という）。

「地球」は人生の基本であり、限られた寿命という時間を共に過ごし、喜怒哀楽を分かち
合う最も大切な「幸福のユニット」です。

だが、家庭内の不和が絶えず3組の夫婦中、1組が離婚する昨今、あたかも砂の器のように家庭内に吹き荒れる嵐には極めて弱いユニットであることを再認識する必要があります。

他方、太陽に相当するのが仕事＝職業です（以下「太陽」という）。

太陽から発せられる光は、生物の生存に不可欠なものという意味で、人の場合、生計を立てる貨幣にたとえることができます。

しかし、人は太陽に近づくことはできません。一定の距離感が重要です。

同様に「太陽」に接近しすぎると、思わぬ紛争・摩擦・軋轢・憎悪の嵐に巻き込まれ「強い紫外線」を浴びせられ、身体を壊されて寿命を縮めます。

「太陽」は重要ですが、一定の距離感が必要なのです。

「太陽」との距離感がなかった団塊の世代等の定年退職者の状況を客観視する必要があります。躁鬱、アルコール中毒、ストーカー、そして最近では若者よりも危険ドラッグ等の薬物依存が深刻だと言われています。

彼らは「地球」との距離も離れすぎています。

単身赴任等により妻はもとより、子供ともかけがえのない思い出を共有していません。

語るべき思い出がないため仮面家族になるのは当然の帰結なのではないでしょうか。

適切な距離感がないと過度な自負と期待をもち、その期待が裏切られると殆ど人は絶望を味わいパニックに陥ります（私が法政大学で教えていた頃、左遷された大企業の部長が社長室に押し入り割腹自殺した事件がありました）。

尖閣諸島や竹島等、無人島の攻防が重要な外交課題となり、国防費を増額している日本に果たして貴方の命をかけるほどの歴史的価値の高い意義のある仕事があるのでしょうか？

「地球」の未来の方が大切なのではないのでしょうか？

「地球」の未来を見届けるためには、天から与えられた天寿を全うすることが大切なのではないのでしょうか？

確かに日本人は勤勉です。

しかし、「太陽」と距離感を保つことを苦手とします。

日本人は家族を大切にします。

しかし、世界の中で血族同士の殺人が絶えない希有な国であることも事実です。

これは「地球」の何たるかを客観視することができないからではないのでしょうか。

親は親の人生、子供は子供の人生があるはずです。

にも拘わらず、いつまで経っても子離れ・親離れができず、運命共同体のような際限のない共同生活を望むことに原因の一つがあると思われます。

働かず引きこもりとなり、いつまでも親に頼り、親が亡くなっているのに遺体を放置し年金を搾取する、あるいは精神を病んだ末、犯罪を犯すというのはめずらしいことではなくなりました。

皆さん！ 地球で人が生存するために不可欠な月に相当するものを持ちませんか。

自分や家族が「地球」、仕事＝職場が「太陽」だと仮定し、あなただけの「月」を持って

みてはいかがでしょうか。

「月」は生き甲斐であり、楽しみです。

「月」は師であり、先輩であり、同志であり、友であり、後輩であり、弟子です。

「地球」や「太陽」以外に、自分が自分であることを自覚させてくれる、没頭すると職場や家庭であった嫌なことを忘れ、「人生はいい」と感じさせてくれる「月」を持つべきだと考えます。

「月」を持てば「自転」が適切な時間に変わります。

私は未だに携帯電話やスマートフォンを持ちません。固定電話や公衆電話、電子メール等で充分事足りるからです。

各種ゲームやパチンコ等もやりません。人生そのものがギャンブル的性質を帯びているからです。

芸能・スポーツにも興味がありません。

人の生活の基本は衣食住であり、芸能・スポーツ等は、本来、従であるべきで主役になってはならないと考えているからです。

私には日本跆拳道という「月」があり、J T A 門人という「地球」以外の宝があります。血はつながってはおりませんが、一生懸命修練に励んでいる門人達は血のつながっている兄弟・甥姪よりも大切な存在になっているからです。

「月」をもち「自転」が適切な私の目から見ると

「地球」と「太陽」だけの人は、「自転」の速度が速すぎます。

それはあたかも1日24時間の地球の自転が、月がない場合、8時間になるのと似ています。毎日が慌ただしく過ぎ去って行くようです。

「太陽」のことばかり考えていると、不安で不安でなかなか眠れないようです。

前述したとおり、月のない地球には、風が強くなり高低差が激しくなって命の保つために重要な水をためる海・川・湖がなくなります。

脳が発達した人の場合、脳を休める休養という安息の時間が不可欠です。

ところが「自転」が速すぎると、感情の高低差が激しくなり、余裕という心の落ち着きをためる「海」・「川」・「湖」がなくなります。

その結果、もたらされるのが睡眠障害です。

眠れないからといって、パソコンやスマートフォン等に熱中すると青色ダイオード等の影響でより一層眠れなくなります。残るのは精神的疲労だけです。

やはり「太陽」とは一定の距離感が必要です。

「紫外線」を浴びすぎて限られた寿命を確実に縮めるからです。

もっともたとえ大量の「紫外線」を浴びせられても、我慢を強いられるのが「太陽」です。

その結果、蓄積された鬱憤が、些細なことで「地球」で爆発してしまうかも知れません。

最悪の場合、巨大な隕石が衝突したかのように「地球」が壊滅してしまうこともあります。

「自分は何のために今日までがんばってきたのか？ 家族のために我慢してきたのに」

という自負が根底から崩れるかも知れません。

そうすると酒、煙草・薬物、博打、ゲーム、芸能スポーツ等のイベント、スマホ・携帯電話等々に依存してしまいます。

金と時間を浪費し病魔が貴方を襲うことになるでしょう。

天から授かった人生という時は無限ではありません。

「太陽」との距離感がない人は、人生を謳歌できる限られた時間を虚しく消費しています。

「自転」が速すぎる人は、その思考に客観性がなくなります。

「地球」と「太陽」だけに心を奪われていると心に余裕が無くなります。

心に余裕なくして平常心は保つことはできません。

日本跆拳道は平常心を涵養することを重視しています。

平常心無くして困難な状況に適切な判断を下せるはずありません。

自分で考え、自分で決断し、自分で行動しているような錯覚に陥りますが、実はある意図をもった特権階級に脳をコントロールされています。

それは合理主義からなる数値的成果と効率への洗脳です。

周知の通り「太陽」は油断なりません。

基本的に利害関係人で溢れており、損得勘定で自分の運命が決まってしまうからです。

偽りの微笑みで満ちあふれているかも知れません。

もしかするとあなた自身が抑圧移譲の原理で恨みを買ひ、他人の「地球」を壊しているかも知れません。

過度な合理主義は最終的に破滅をもたらす、というのが私の持論です。

国は分裂し、組織は汚れるかつぶれ、個人は病むか自殺すると思われます。

しかし、「太陽」を否定し、辞めろとは言えません。生きるためには必要だからです。

ではどうすれば良いのでしょうか？

私は「美しい「月」を持つことで貴方の「地球」の「自転」を適正化することを提唱します。

「月」には「地球」で生じる離婚も、

「太陽」でかならず訪れる定年も損得勘定もありません。

「地球」が嵐に襲われ、「太陽」の光が「曇」で届かなくとも、美しい「月」の「光」を持続的に浴びることで貴方の人生は変わります。

人としてこの世に生を受けた者だけが許される

「人生はいい」

という人生観を観じることができるようになります。

日本跆拳道が「月」に値するかはわかりませんが、それを目指しております。

そこに創始者・河が日々研鑽する意義があります。

七大精神を掲げる我がJTAに関する限り、強調される徳目は義であり、信であり、美であり、そして楽しむ楽です。

まだまだ未熟な「月」ではありますが、日本跆拳道が皆さんにとって夢中になれる武道であるならば、J T A道場でさわやかな汗を流し、稽古後の黙想の都度、生きる喜びを觀じ、精神的滋養を涵養して欲しいと希望します。

J T A道場には、かけがえのない同志の美しく打算のない素心の微笑みがあります。

「人間はいいな」

と觀じることを可能とする仲間の存在があります。

辞めればゼロになりますが、生涯武道として持続する限り、天寿を全うするまで貴方の宝となるでしょう。

老齡に達し試合出場が難しくなれば、かつての自分と似た善良な若者を指導し育てれば良いのです。

血がつながっていないからこそ、高潔な絆が涵養されるのが師弟愛だと考えます。

現代日本は、長寿高齡化社会が迫っています。

脳障碍なく健康な天寿を全うするためには運動が不可欠です。

持続的に良い汗を流し、快適な食事と睡眠等を担保することが時代の要請にかないます。

それに加えて高齡者になっても若い人々と持続的に接することが大切だと考えます。

同じ年齢層のみの交流だけでは精神的によい刺激を期待できないからです。

幸い我がJ T Aが普及する日本跆拳道は、前述の時代の要請にすべて適合します。

ゆえに質を高める必要性があるのです。

皆さん！ 私と共に、日本跆拳道を「月」に値する至高の武道に昇華させて行きませんか。

私の代でかなわなければ次のJ T A世代が、

私同様、人生に対する美意識をもって日々研鑽に励んで頂ければこれほど嬉しいことはありません。

日本跆拳道を生涯武道＝「月」とみなし、共に歳を積み重ね天寿を全うしながら、

「人生はいい」

と実感して行こうではありませんか！